

●中山地区 まちづくり懇談会記録

平成23年6月25日(土)午後7時～9時 (中山公民館)

魅力あるまちづくりについて

	質問事項	答弁要旨	答弁者
①	川島町で生まれ育った子たちが教育を受け、社会へ巣立っていく中で、どれだけの職場環境が町内に備わっているのでしょうか。若者が見たときにそれが十分なのか、これが大切な視点だと思います。将来を見据えた中で、家庭を持って自活できるかとなった時に、家族を養っていける環境が備わっているのかどうか、今の若者にもなんとなくわかるのではないかと。そういうことから町外へ出て行ってしまうのではないかと思います。川島に目を向ける若者よりも、近くなら川越、または都内に目を向ける方が多く、そうすると通勤を考えても負担となります。圏央道、インターもできて、企業を誘致する際も、若者の目を引くような企業を誘致する努力も必要だと思います。	町にはインター産業団地ができており、それ以降の開発等も計画しております。ご意見を参考にさせていただきながら、進めていきたいと考えています。	政策推進課長
②	町長の話の中で、公約の③美しい景観・自然が守られるまちの中の「産廃施設阻止への取り組み」の説明が抜けていましたが、その理由を聞かせてください。	大意があったわけではありません。公約については、概要として説明させていただきました。今までどおりやっていきたいと思っておりますのでご理解をいただきましたと思います。	町長
③	予算の中で消防費が高い(歳出の8.3%)と思います。厳しい財政状況の中ですので努力して削減してほしいと思います。 また、町の広報紙で町内の企業を紹介、PRをして若い方へも浸透していけばいいのではと思います。	消防費の予算については、救急や消防団等に係る経費を合わせて川越地区消防組合負担金として474,000千円となっており、他には水防費で2,700千円、災害対策費で36,000千円の予算を組んでいます。消防行政でも経費の削減については、機械器具の更新等を先送りするなど、できることから努力はしているところです。また、川島の消防署に職員や車両を配置している中で、その経費を人口で割り返すと、町民一人当たりの恩恵は川越市と比較しても受けているとも考えられます。出る経費を抑える努力は引き続き行って対応していきたいと考えていますのでよろしく願いいたします。 広報紙での企業PRについては、実施できるか検討していきます。	町長 政策推進課長
④	インター周辺の開発により企業が進出していますが、若者たちが目を向ける企業はまた違うのかなと思います。また、農業後継者の問題もある中で、土地利用のあり方を考えていく必要があると思います。その方法によって、結果的には若者の定住にもつながるかと思っています。	ご指摘のとおり、しっかり考えた企業誘致を進めていかななくてはならないと思っています。農業問題については、農地法等の厳しい縛りや後継者の問題がある中で、新規就農者へのできるだけの支援を行っておりますが、今後は土地を有効活用し、効率的な経営をなるべく大規模な集団化を進めていきたいと思っています。	町長

⑤	町内の若者へのアンケートを実施して意見を聞くのがいいかと思えます。	町では定期的に町民アンケートを実施し、年代別に集計するなど、参考にしております。また、町職員にも若手職員を対象にしたアンケートを実施したり、定住に向けたアイデアの募集をしたりして検討をしているところです。	政策推進課長
⑥	やすらぎの郷でも節電には取り組んでいると思いますが、一般の設定温度よりも涼しくしていただけたら人も集まり、良いと思えます。	電力が不足する中で、やすらぎのみならず、各家庭、企業等みなさん全員で協力しながら乗り越えようとしているところですので、冷房温度は29℃に設定してのご利用をお願いいたします。	町長
⑦	川島町で一番心配なのは水害です。今回の震災で「想定外」という言葉をよく聞きますが、町としてはどれだけの降雨量を想定しているのでしょうか。また、計画停電によって水道が止まりましたが、ライフラインの考え方を聞かせてください。また、町の避難所を見ると収容能力が少なく、高さも低いので、高さや収容能力のある避難所が必要だと思います。	川島町のハザードマップをお配りしてるところですが、こちらは24時間総雨量で301mm（荒川水系市野川）を想定雨量としています。また、荒川水系荒川及び入間川流域が氾濫をきたすであろう大雨は3日間で548mmを想定しています。市野川は100年に1回、荒川は200年に1回程度起こる大雨を想定してるわけですが、それも考えて、避難場所が低層である問題も含めた地域防災計画の見直しを行うところです。なお、産業団地には高い建物が多くありますので、一時的な避難所として提携できないか相談していきたいとも考えています。役場の庁舎についても、老朽化が進み、新庁舎建設の検討を実施していますので、災害といった面も加えて検討していきたいと思えます。また、停電になって水道が止まってしまったことについてですが、町に発電機はあるのですが、当時は継続的に燃料が入らず、断水となってしまいました。大変申し訳ありませんでした。	町長 総務課長
⑧	大雨が発生したとき避難所へ避難するまでに被害にあった例もあるようですが、川島町は水害の危険性がある土地柄だと、こういう土地に我々は住んでいるんだと意識を高めて、自分のことは自分で守るんだという啓発をしっかりとっていくことが一番の防災につながるのではないのでしょうか。	おっしゃるとおりだと思います。貴重なご意見ありがとうございます。町では防災カードという取り組みを行っておりまして、災害時に助けが必要な要援護者の把握に努め、避難体制の仕組みづくりに努めています。	総務課長
⑨	計画停電時の危機管理について、停電で信号機がストップしたときに誰も交通整理に配置されていなかったのですが、体制について伺います。	各小学校では計画停電によって信号機が止まる通学の時間帯には父兄の方々に協力をいただきました。また、主要道路（国道254号）については、警察の所管で対応していただきました。広域の停電ですので、なかなか警察も手が回らなかったのですが、警察署に確認したところ、みなさんが慎重に安全運転を心がけていたことから大事故につながるものは少なかったようです。	総務課長
⑩	防災カードの活用についてですが、個人情報という中で、地域にもよるかと思いますが、なかなか情報が流れていないように思います。届出のあった方の情報は区長や地域に流れているのでしょうか。情報を集めるだけでなく、しっかり活用していただければと思います。	防災カードの申し込みがあった場合は、聞き取りをして登録を行い、民生委員さんと情報を共有して対応しています。伊草地区では班の会議で了解をとって、班長さんは要援護者を把握していた方がよいと取り決めをして情報管理をしているようです。	町長 総務課長

⑪	以前に、スーパー堤防構想の話があったかと思いますが、最近ではなくなったのでしょうか。	荒川スーパー堤防の構想では、赤羽から熊谷大橋間の事業計画がありましたが、事業仕分けの対象にもなっており結論は出ていません。また、その後の進展もしていません。	町長
⑫	震災時に、中山小学校でも連絡が取れなくなり子どもの状況が全くわかりませんでした。保護者の方が小学校へ来て急遽引き渡しとなりましたが、それを知らない保護者は学校へも連絡が取れずに混乱を招きました。防犯の組織もありますが、それは電話での連絡が基本ですので、今回のような場合の手段として、防災無線を活用することなどはできないのでしょうか。	避難訓練は各学校で何度も行っており、震災時にも訓練に基づいて人がなく対応できたのですが、お話にあったとおり、その後の子供たちの保護者への引き渡しという部分では行き違い等がありました。防災無線を活用するのも難しい面がありまして、他の学校ではある一定の地震が発生した場合、連絡が取れなくても保護者の方に学校へ来ていただくという取り決めをしているところもあります。しかし、電話も使えなく、迎えにも行けないという場合もありますので、親戚、知人等が近くにいらっしゃる場合は学校へ迎えに行ってくださいとか、PTAや学校と事前に十分調整して対応できるようにしていきたいと考えています。大きな課題として防災計画にも盛り込んでいきたいと思っています。	教育総務課長 総務課長
⑬	防犯パトロールの旗が傷んでいて、町にお願いしているが、その対応はいかがでしょうか。	コミュニティー活動の助成事業として、3か年に限り助成を行っております。各地区の自主防犯組織には助成をして旗やチョッキ等を買って揃えていただいておりますが、のぼり旗は劣化が激しいようですので、ご要望を踏まえ、対応していきたいと考えています。	総務課長